第3次亀岡市環境基本計画取組状況報告書

令和6年度

亀岡市

第3次亀岡市環境基本計画施策体系図

市 によって実践

目指すべき 環境像

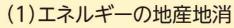
未来につなごう 世界に誇れる持続可能な環境先進都市 かめおか

重点目標

施策分野

- 1. 二酸化炭素排出量実質ゼロのまちづくり
- 2. 使い捨てプラスチックごみゼロのまちづくり
- 3. 亀岡ブランドの創造による地域経済が循環するまちづくり
- 4. ごみを減らして資源を有効活用するまちづくり
- 5. 多様な生きものと共生できるまちづくり





- (2) 再生可能エネルギーの導入拡大
- (3)省エネルギーの促進
- (4)環境に配慮した交通手段の推進
- (5)気候変動対策の推進
- (6)多様なエネルギーの調査・研究



- (1)生物多様性の保全
- (2)水環境の保全
- (3)森林環境の保全
- (4)農地の保全

2 資源循環型社会の形成









- (1)プラスチックごみ対策
- (2)3Rの推進
- (3)食品ロスの削減
- (4)廃棄物の適正処理
- (5) 有機性廃棄物のたい肥化



5 亀岡ブランドの 創造·発信









- (1)農産物の付加価値の向上
- (2)エコツーリズムの展開
- (3)環境配慮型の新たな創業支援
- (4)サーキュラーエコノミーの普及啓発
- (5)(仮称)環境政策情報発信・ 交流拠点施設の整備



- (1)環境汚染防止対策の推進
- (2)不法投棄対策・ポイ捨て対策等 の推進
- (3)まちなかの緑化
- (4)ふるさとの保全



6 環境意識の 普及啓発







- (1)環境に配慮した取組の実践
- (2)環境教育・環境学習の推進
- (3)協働による環境活動の推進
- (4)企業とのパートナーシップの構築
- (5)多文化共生における環境啓発 の推進







1 脱炭素化の推進

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | | |
|-----|--------------------|--|--|--|--|--|--|
| 1 | エネルギーの地産地消 | Circular Kameoka Labに太陽光発電システム及び蓄電池の設置を行いました。また、亀岡ふるさとエナジー(株)と連携し、保津保育所に太陽光発電システム及び蓄電池を設置する準備を行いました。再生可能エネルギーの導入に向けて、営農型太陽光発電施設の視察を行いました。 | | | | | |
| | | 亀岡ふるさとエナジー(株)と連携し、令和6年度は公共施設・事業所への電力供給契約件数が80件となり、電気供給量の拡大に努めました。 | | | | | |
| 2 | 再生可能エネルギーの 導入拡大 | 住宅用の太陽光発電システムと蓄電設備を同時設置する市民へ助成を 行い、再生可能エネルギーの導入を支援しました。 | | | | | |
| 3 | 省エネルギーの促進 | 亀岡ふるさとエナジー(株)と連携し、公共施設等への省エネ診断及び ESCO 事業を検討するとともに、千代川浄水場および年谷浄化センター におけるVPP事業(調整力公募電源)を実施し、電力需給バランスの調整 に努めました。 | | | | | |
| | 環境に配慮した交通手段の推進 | ニチコン(株)、日産自動車(株)、京都日産自動車(株)、亀岡市の4者で「電気自動車を活用した脱炭素化及び強靭化に関する連携協定」を締結しました。また、市庁舎駐車場にEV充電器を設置(運用開始は令和7年度)したほか、環境プロモーションセンターにV2Hシステムを導入し、レジリエンス強化に努めました。 | | | | | |
| 4 | | 交通事業者と連携したまちづくりを推進しました。また、自動車利用を抑制するエコ通勤等に取り組みました。※1日あたりのバス利用者数3,659人(令和5年度)/市民ノーマイカーDayの実施21日/交通環境学習の実施(1校) | | | | | |
| | | 円滑な交通流の確保に向けて、道路事業(24路線)を実施し、道路環境 の改善に努めました。また、主要生活道路の補修改修工事や橋梁の長寿 命化のための修繕を実施しました。 | | | | | |
| | | 公用車の更新にあたり、電気自動車等4台を導入しました。 | | | | | |
| 5 | 気候変動対策の推進 | 亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の進捗管理に向けて指標を策定し、進捗状況を亀岡市環境審議会及び亀岡市環境基本計画推進会議に報告しました。 | | | | | |
| 6 | 多様なエネルギーの調査・ 研究 | 再エネ導入ゾーニング事業を実施し、バイオマス発電を含む再エネの導入可能性について調査し、報告書をまとめるとともに、中干延長によるJクレジット創出事業を試行実施しました。 | | | | | |
| | | 一般廃棄物のエネルギー利用の調査(未利用資源であるし尿、浄化槽汚泥等のエネルギー化の調査)を実施しました。 | | | | | |

2 資源循環型社会の形成

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | |
|-----|-----------------|---|--|--|--|--|
| | プラスチックごみ対策 | 企業等と連携し、マイボトルの普及促進・持参率向上に向けた啓発事業等 を実施するとともに、公共施設や小・中学校・義務教育学校、高等学校へ の給水機の設置を進めました。 | | | | |
| | | 環境に配慮したサービスを提供するお店「リバーフレンドリーレストラン」の 認定など、市内飲食店等とともに、使い捨てプラスチックごみの削減に取 り組みました。また、市内飲食店等と協力して、無料で給水できる場所(給 水スポット)の拡大を推進しました。 | | | | |
| , | | イベントの主催者及び出店者に対してリユース食器利用促進補助金の交付を行い、イベントで出るごみ及び使い捨てプラスチックごみの削減を図りました。 | | | | |
| 1 | | ごみを出さないスーパー「(株)斗々屋」との協定に基づく量り売り体験開催(ポップアップの出店)により、消費者と小売事業者に対してゼロウエイストに関する関心・認知の拡大を図りました。 | | | | |
| | | 「川と海つながり共創プロジェクト」と連携し、環境展示会への出展等により情報発信や「こども海ごみ探偵団」をはじめとする環境学習など、海洋ごみや河川ごみの発生抑制に向けた環境保全啓発活動を行いました。 | | | | |
| | | イベント時等において企業と連携した啓発に努め、使い捨てプラスチック ごみゼロの意識向上を図りました。また、生分解性素材を活用した農業分 野等での廃プラスチック削減の実証実験を行いました。 | | | | |
| 2 | 3Rの推進 | 市民にわかりやすい資源化システムを構築(市民排出のプラスチック由来の指定ごみ袋の調達)及び受益者負担の適正化の検討を行いました。令和6年度はごみの総排出量、資源化量ともに減少しました。市民の排出行動の変化(エコゲートの利用や新聞購読者の減など)に伴う紙類(集団回収分)の減少などが資源化量の減少につながったと考えられます。 | | | | |
| 2 | | サーキュラーエコノミーの構築に向けて民間企業と連携協定を締結(5社)しました。 | | | | |
| | | 財産管理課で払い出しを行う事務用消耗品は、すべてエコ・グリーン製品 等を購入しました。 | | | | |
| 3 | 食品ロスの削減 | 食品ロス削減推進計画の推進及び食べきりの市民啓発活動を実施しました。 | | | | |
| | 廃棄物の適正処理 | 廃食油の資源化事業を開始したほか未利用資源の再資源化に向けた体 制を検討しました。 | | | | |
| 4 | | 公共工事の廃棄物の再資源化が適正に処理されているかどうか、検査時における完成図書の各書類から、確認を行いました。また、設計図書(特記仕様書等)に明記して対応したほか、コンクリートがら・アスファルトがらを再資源化施設へ搬入するなど、常に廃棄物の適正処理を実施しました。 | | | | |
| 5 | 有機性廃棄物の たい肥化 | 分別収集したせん定枝及び草の資源化(炭化)の実証を行いました。 | | | | |
| 5 | | 生ごみ処理容器(コンポスト)の購入代金の一部を助成(16件)することで、一般家庭から排出されるごみの減量化を推進しました。 | | | | |

3 生活環境の保全

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | |
|-----|-------------------|---|--|--|--|--|
| | 環境汚染防止対策の 推進 | 各河川の水質検査を継続実施(35定点/2回、9定点/4回)するとともに、 水質の現状を的確に把握して、水質の保全に努めました。 | | | | |
| | | 市街化区域における環境基準の適合状況を把握するため、環境騒音測定 (1回/年)を実施しました。また、市内の主要幹線道路においても自動車 騒音測定(1回/年)を実施しました。 | | | | |
| 1 | | 京都府や関係機関等と連携し、情報を収集・共有することで、土壌汚染の未然防止及び早期発見、大気環境の保全等に努めました。 | | | | |
| | | 浄化槽普及推進地域において、補助制度を活用しつつ、個人設置型浄化槽の設置を進めました。また、浄化槽の適正な維持管理をはじめ、水環境の保全の重要性について、チラシ配布等の啓発に努めました。 | | | | |
| | | 下水道供用開始区域内において、未水洗化世帯を対象に戸別訪問及び啓発チラシの配布を行い、水洗化率が前年度と比べ0.4%増加しました。 | | | | |
| | 不法投棄対策・ポイ捨て対策等の推進 | 市街地や山間部において、不法投棄パトロールを実施し、不法投棄監視体制を強化するとともに、市民の関心を高め、美化意識及びモラルの向上を図りました。 ※監視パトロール:96日/年、監視カメラの運用等による監視及び未然防止:6台、不法投棄監視ウィーク等における啓発活動の実施:30日/年 | | | | |
| | | ポイ捨て防止重点地域において、ポイ捨て等禁止指導員による監視パトロール(282日/年)を実施しました。 | | | | |
| 2 | | 「かめおか環境デー」など清掃活動イベントを実施し、美化活動を促進しました。 | | | | |
| | | 市主催の清掃活動やイベント等において、「エコウォーカー」への登録を募るとともに、市内保育所・幼稚園・こども園において、「エコウォーカーキッズ・チャレンジプログラム」を実施しました。 | | | | |
| | | 空き家・空き地バンク制度(新規登録数34件)を運用し、移住者などの定住を促進することで、地域の活性化を図りました。 | | | | |
| | | 管理不良の空き家に対する改善指導として、現場調査を13件実施し、空き家の適正管理に関する通知を行いました。 | | | | |
| | まちなかの緑化 | 良好な景観形成をするための活動を行う団体(NPO法人亀岡・花と緑の 会)へ助成金を交付しました。 | | | | |
| 3 | | 緑化推進意識の向上を図るため、かめおか緑花フェアを開催しました。 | | | | |
| | | 明晴北公園・明晴南公園・夕日ケ丘四丁目公園の令和7年4月1日からの 都市公園化及び供用開始に向け、事務を進めました。 | | | | |
| 4 | ふるさとの保全 | 亀岡市文化財保存活用地域計画に基づき、市内の文化財の保存修理等 を行いました。 | | | | |

4 自然との共生

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | | |
|-----|----------|--|--|--|--|--|--|
| | 生物多様性の保全 | アユモドキが生息する河川へ外来魚が侵入しないよう、NPOや保全団体と連携し、ため池での外来魚の侵入防止、駆除活動を実施し、アユモドキの保護に努めました。 | | | | | |
| | | 特定外来生物法に基づく捕獲檻の貸し出しを行い、アライグマおよびヌートリアの捕獲・処分を適正に実施しました。 | | | | | |
| 1 | | 安定したアユモドキの生息環境を創出するため、アユモドキの実験池の整備など保護保全活動を実施しました。 | | | | | |
| | | 生物多様性について考える機会として「NPO法人亀岡人と自然のネットワーク」と連携し、「みんなでアユモドキを守ろう!親子観察会」などのイベントを複数回開催したほか、京都府主催の「京都環境フェスティバル2025」に出展し、啓発に努めました。 | | | | | |
| | 水環境の保全 | 観光を楽しみながら環境を学び、体験を通じて参加者の環境意識を醸成するため「かめおか保津川エコツアー等支援事業補助金」を交付しました。 | | | | | |
| 2 | | 「川と海つながり共創プロジェクト」と連携し、清掃活動をはじめ、情報発信や環境学習を通じた啓発事業を実施し、保津川流域の水環境の保全を行いました。 | | | | | |
| | | 市民参加型の一大清掃イベント「保津川の日」を開催し、市民の間での環境美化に対する意識の高揚を図りました。 | | | | | |
| | | 河川の重要性を認識し、河川愛護意識を高めるため、愛護月間にあわせて公用車に啓発用マグネットシート取付・市庁舎前に懸垂幕掲出、広報かめおか掲載に取り組みました。 | | | | | |
| 3 | 森林環境の保全 | 森林組合等対しに利用間伐推進を行いました。あわせて森林経営管理権 集積計画の作成を進め、市内で新規2箇所の森林経営計画による森林整 備の推進を行いました。 | | | | | |
| | | 新生児に贈る「木育誕生祝品」について、市内工房に発注することにより、 地元府市内産の木材を利用した木製品の消費推進を行いました。 | | | | | |
| | 農地の保全 | 国営緊急農地再編整備事業の導入による未整備田の整備を促進するため、未着工地区すべて工事発注済みとなりました。 | | | | | |
| 4 | | 農地の保全に向けた取組として、農業の多面的機能を維持し、中山間地域における農業の継続を支援するため、多面的機能支払交付金事業における対象農地211,134aの保全・活用を行いました。 | | | | | |
| | | 有害鳥獣防護柵の設置、有害鳥獣の捕獲・駆除等を総合的に実施し、被 害防除対策と野生動物管理を実施しました。 | | | | | |

5 亀岡ブランドの創造・発信

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | |
|-----|--------------------------------|--|--|--|--|--|
| | 農産物の付加価値の向上 | 学校給食用米に占める有機米比率52.4%達成しました。 | | | | |
| 1 | | アグリフェスタのほか、オーガニックライフスタイルEXPOや MINATOEXIPOに参加し、亀岡産農産畜産物のPRを行いました。 | | | | |
| | | 環境に配慮した有機農業の推進に当たり、環境への負荷を低減した持続可能な生産方式の基準を認定する「有機JAS」の認定取得を奨励するため、認証取得支援事業補助金を4件交付しました。 | | | | |
| | エコツーリズムの展開 | 「川の駅・亀岡水辺公園」の通常営業のほか同施設を活用した教育旅行誘致を目指す実証実験を含めた計6件のイベントを実施しました。 | | | | |
| 2 | | 亀岡での滞在を通して土地や人と出会い、つながりを体験する新たな旅 行スタイルを提供する「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトを 実施しました。 | | | | |
| | | エコツーリズムの展開を通じ、亀岡の魅力の再発見、再構築に努めました。 ※自然体験型アクティビティ関連施設の観光入込客数:27,000人 | | | | |
| 3 | 環境配慮型の新たな創業支援 | 亀岡発のアップサイクル製品である「HOZUBAG」の販売を通じ、環境に 配慮した商品のPRを図ることができました。 | | | | |
| 3 | | 亀岡市内における事業者数の増加を目指し支援を行った結果、新たに4 事業者が創業するに至りました。 | | | | |
| 4 | サーキュラーエコノミーの普及啓発 | 環境に関する協定を締結している企業と連携し、ペットボトルやステンレスボトルの再資源化を図るとともに、各家庭で不要となった物のリユースを推進しました。 | | | | |
| | | 一般廃棄物の削減に係る府立農芸高校及び市内宿泊施設との連携事業 を実施しました。 | | | | |
| 5 | (仮称)環境政策情報 発信・交流拠点施設の 整備 | 本市が取り組む環境施策について、市民一人ひとりや全国に広く情報発信できる拠点となる施設「Circular Kameoka Lab」が令和6年8月1にオープンしました。 ※令和6年度来場者数:8,837人 | | | | |

6 環境意識の普及啓発

| No. | 施策 | 市の取組 | | | | |
|-----|----------------------|---|--|--|--|--|
| | 環境に配慮した取組の実践 | 自然保育を実施している4園で、月に1回有機野菜を取り入れた給食を実施したほか、月に1回全園で有機米給食を実施しました。また、保津保育所では、保津町内やかめきたサンガ広場などでエコウォーカーキッズの活動を実施するとともに、Circular Kmaoka Labで環境等について学んだ。(計7回) | | | | |
| | | 令和6年度は生き物大学初級・中級・特別講座を例年通り実施でき、令和 5年度の参加者(571人)を超える767人に参加いただくことができた。 | | | | |
| 1 | | 消費者として、商品・サービス等に関する知識を深め、自覚を高めることによって、環境に配慮し、安全で安心な消費生活を送れるよう、「消費者大学」(5講座/延べ124人)を開催しました、また、消費者のライフスタイルにあった消費生活設計や商品サービス等に関する知識を親子で学び、安全・安心で健康的な生活を推進するため「親子消費者教室」(1回/12組21人)を開催しました。 | | | | |
| | | 保津川下りの事故の影響があったことから、「エコラフティング事業」については希望する一部の亀岡市立の小・義務教育学校前期課程の4年生、「保津川環境学習・保津川下り体験乗船事業」については中・義務教育学校後期課程2(8)年生を対象に実施しました。 | | | | |
| | | 市立図書館において、環境問題への意識啓発のために、環境関連図書・ 自然科学分野関連図書の収集に努め、6月に中央館及び分館・分室で環 境月間の展示を行いました。 | | | | |
| | | 市文化資料館において、歴史的・文化的な景観の啓発に関する出前授 業、出前講座を行いました。 | | | | |
| 2 | 環境教育・環境学習の 推進 | 環境に配慮した取組を行う企業「BRITAJapan(株)」との連携により、府立高校2校への環境教育と5校の市立小・義務教育学校への環境講演を実施しました。 | | | | |
| | | 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金制度及びふるさと亀岡まちづくり応援交付金制度を通じ、環境問題に取り組む団体への支援を実施しました。 | | | | |
| 3 | 協働による環境活動の 推進 | 環境保全活動に取り組むNPO法人等市民活動団体への支援として、相談・アドバイス、情報発信等を実施しました。 ※かめおか市民活動推進センターの利用者数:9,538人、相談件数:11件 | | | | |
| J | | 市文化資料館において、学芸員実習に参加している大学生を対象に、授業内でアユモドキの保護に関する内容についても説明するなど、市内の自然・環境について理解を深める機会を設けました。 | | | | |
| 4 | 企業とのパートナーシップ の構築 | 環境に配慮した取組を行う企業や団体との取組・連携強化に努めました。 | | | | |
| 4 | | 亀岡市の公式SNS等でエコマルシェの情報を市内外に発信し、リユース 食器の利用促進、ごみを出さない取組をPRしました。 | | | | |
| 5 | 多文化共生における環境 啓発の推進 | 昨年度オープンしたCircular Kameoka Labや本庁舎1階の案内など、外国人住民に関わりのある情報について、英語またはやさしい語に翻訳しました。 | | | | |

主な成果指標 まとめ

| 計画で定める主な成果指標 | | | | | | |
|---|-----------------|--------------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 指標 | R2度実績 | R3度実績 | R4度実績 | R5度実績 | R6度実績 | R13度目標 |
| 自家消費型太陽光発電事業の契約件数 | 0件 | 1件 | 1件 | 1件 | 2件 | 10件 |
| 公共施設・事業所への電力供給契約件数 | 50件 | 57件 | 72件 | 73件 | 80件 | 100件 |
| 太陽光発電システム及び蓄電池を設置済みの 公共施設数 | 5施設 | 5施設 | 6施設 | 6施設 | 7施設 | 100施設 |
| 亀岡市役所における温室効果ガス総排出量 | 20,130t-CO2 | 19,893t-CO2 | 18,288t-CO2 | 18,919t-CO2 | 20,618t-CO2 | 12,253t-CO2 |
| 省エネ診断の実施施設数 | 4施設 | 4施設 | 4施設 | 4施設 | 5施設 | 100施設 |
| ESCO事業導入施設数 | O施設 | O施設 | O施設 | O施設 | 0施設 | 20施設 |
| 市の公用車への電気自動車等の導入台数 | 2台 | 5台 | 6台 | 9台 | 13台 | 10台 |
| 市内全体の温室効果ガス年間排出量 ※令和4年度策定「かめおか脱炭素未来プラン」のR2度実績及びR13度目標数値を使用 | 380千t-CO2 | 355 千 t-CO2 | 378千t-CO2 | 集計中 | 集計中 | 278千t-CO2 |
| エコバッグ持参率 | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 100% |
| 給水機の設置台数 | 7カ所 | 7カ所 | 16カ所 | 16カ所 | 17カ所 | 70カ所 |
| マイボトル持参率 | 66% | 70% | 70% | 70% | 78% | 100% |
| 給水スポット | 14カ所 | 88カ所 | 83カ所 | 84カ所 | 94カ所 | 100カ所 |
| リバーフレンドリーレストラン | 7カ所 | 14カ所 | 25カ所 | 23カ所 | 27カ所 | 30カ所 |
| ごみの総排出量 | 24,815t | 24,196t | 24,192t | 23,141t | 22,341t | 21,511t以下 |
| 資源化率 | 16.69% | 16.68% | 17.50% | 19.41% | 18.03% | 20.5%以上 |
| 水洗化率 | 95.9% | 96.2% | 96.3% | 96.3% | 96.7% | 97.0% |
| 浄化槽処理人口 | 3,944人 | 3,800人 | 3,706人 | 3,612人 | 3,505人 | 4,144人 |
| エコウォーカーの登録者数 | 251人 | 1,110人 | 1,613人 | 1,843人 | 2,455人 | 5,000人 |
| 「かめおか緑花フェア」(旧花と緑のフェスティバル)入場者数 | 10,000人(R1度) | コロナのため中止 | 約500人 | 約5,000人 | 約5,000人 | 15,000人 |
| 「花と緑のまちづくり」補助金交付団体数 | 16団体 | 16団体 | 15団体 | _ | _ | 22団体 |
| 亀岡市景観まちづくり市民団体の認定件数 | 1件 | 1件 | 1件 | 1件 | 1件 | 3件 |
| 一人当たりの公園整備面積 | 8.0㎡/人 | 8.3㎡/人 | 8.4㎡/人 | 8.6㎡/人 | 8.7㎡/人 | 13.0㎡/人 |
| 文化財保護法第93条「埋蔵文化財発掘の届出」 件数 | 162件 | 166件 | 168件 | 111件 | 165件 | 200件 |
| 繁殖に参加するアユモドキの親魚の数 | 166匹 | 166匹 | 609匹 | 668匹 | 404匹 | 500匹 |
| 保津川クリーン作戦実施回数 | 8回/年 | 18回/年 | 21回/年 | 8回/年 | 8回/年 | 12回/年 |
| 農地基盤整備事業進捗率 | 61% | 61% | 64% | 66% | 68% | 76.1% |
| 保育所・こども園給食での有機農産物導入園数 | 0園 | 0園 | 4園 | 8園 | 8園 | 8園 |
| 有機JAS認証農家数 | 6 | 7 | 7 | 7 | 7 | 26 |
| 農業産出額 | 63億円(2017 年) | 58億円 | 62億円 | 63億円 | 70億円 | 70億円以上 |
| 「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの 年間売上総額 | _ | 87,798円 | 28,310円 | 139,700円 | 29,437円 | 800万円以上 |
| 環境ロゴマークの使用申請数 | 16件 | 延べ37件 | 延べ49件 | 延べ55件 | 延べ61件 | 延べ200件 |
| 亀岡発のアップサイクル製品による被雇用者数 | - | 8人 | 8人 | 8人 | 7人 | 10人 |
| 新規起業数 | 14事業者 | 延べ20事業者 | 延べ23事業者 | 延べ26事業者 | 延べ30事業者 | 延べ30事業者以 上 |
| 歴史的・文化的な景観の啓発に関する出前授業・ 出前講座 | 22件 | 25件 | 54件 | 45件 | 28件 | 50件 |
| 環境パートナーシップ提携企業数 | 33社 | 62社 | 70社 | 73社 | 79社 | 200社 |